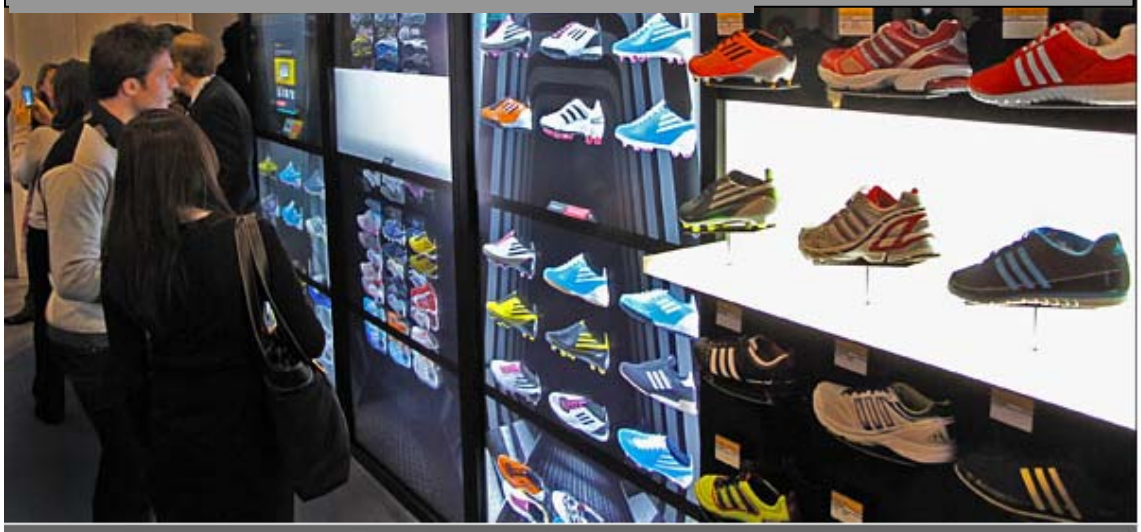
Intel AIMSuite のディジタルサイネージシステムへの適用例：



① **アディダス**社が靴製品の仮想店舗“adiVERSE”を発表

来店したお客様はぴったり合った靴が見つかったにも拘わらず、店舗に必要なサイズがなく他の店舗でも在庫してなくてがっかりするということがよくあります。アディダスはお客様に失望を与えない対話型小売店舗“adiVERSE”を 2012 年に出店します。

タッチスクリーン技術と 3 次元のレンダリング製品を使用することで、来店者は仮想棚で靴を選択し、商品を取り出して、方向を変えて見たり回転させたり、ズームさせたり出来ます。最後にお客様はタブレットベースのチェックアウト経由で選択した靴を購入でき、自宅に配達できます。

Global Retail Marketing の担当副社長の Chris Aubrey は次のように述べています：

「アディダス社は広範囲の靴製品を製造していますが、現在まで小売店舗のスペースが限定されているため顧客が店舗内で選択出来る範囲は限定されていました。AdiVERSE は、特殊な商品を購入するビジネスリスク、つまり幅広いサイズの提供により消費者の選択を改善するように設計されています。」

AdiVERSE の中にインストールされた Intel AIMSuite は、購入者の傾向、顔面属性、購入パターンに関わる数値を提供します。アディダス社は購入者個人のデータを入手し、付加価値の高いサービスを提供できるようになります。

アディダス社はシーズン毎に 4,000 種もの靴製品を発表していますが、AdiVERSE の仮想店舗があればこれらの製品を発表する場が提供されますので、お客様は好みの選択が出来るようになります。

AdiVERSE のデモサイト： http://youtube.com/watch?v=NKbsfOAVu3Y

② **プロクター＆ギャンブル**社のディジタルサイネージ“Endcap”

プロクター＆ギャンブル社とインテルが開発したディジタルサイネージ“Endcap”は、RFID とジェスチャベースの対話、AVA 技術（不特定多数のビデオ分析=AIMSuite）とモバイル対話技術を利用しています。このサイネージ端末は、小売店舗の端に設置されています。近接センサーを備えており、顧客が 10 フィート（3m）以内に入ると存在を検出します。Intel AIMSuite を利用して、システムは性別・年代・

視聴時間等の視聴者情報を収集し、対象視聴者に最適なコンテンツを表示できるような情報を広告業者に提供しています。インテルの“Endcap”システムは、小売業者が専用カードやe-クーポンと関連付けられるようになっています。顧客は、情報やビデオをスマートフォーンに取り込んだり、製品のバーコードを取り込んで仮想店舗のリストに追加したり出来ます。サイネージシステムは、10 インチのスクリーンが付いた 3 つの RFID 機能付“スマートシェルフ”から構成されています。商品は棚からピックアップして、RFID により製品裏の情報をトリガーしてアップデートします。55 インチサイズのメインスクリーンは、その他の製品情報を表示しています。

③ **クラフトフード**社のレシピプランソリューション

クラフトフード社とインテルは、「次世代レシピプランソリューション」と呼ぶ自販機とディジタルサイネージソリューションを統合したシステムを開発しました。このソリューションは、商品のサンプル、モバイル統合と Intel AIMSuite から構成されています。クラフト社の”iFood Assistant”と呼ばれる商品購入支援システムがこのソリューションに統合され、顧客がレシピやショッピングリストなどを 2 次元バーコードを利用してスマートフォーンに入力する手助けをします。店舗専用カードプログラムやクーポンとも連携出来ます。

④ クイックサービスレストランのオーダーキオスク

クイックサービスレストラン(QSR)にディジタルサイネージが使われるようになってきていますが、最も多い応用例は“メニュー盤への適用”です。インテル社は、高品質の 3 次元アニメーションを使って顧客を QSR のキオスク端末に誘導するシステムを開発しました。顧客はキオスクで専用カードを入力し、注文します。システムは顧客が注文を決定する前に、オプションを提案したりサービスメニューを紹介して注文内容を変更できるように提案します。インテルの QSR オーダリングキオスクは、リピート顧客に対して特に便利さを提供し、チェックアウト時の処理を高速化します。リモート管理機能と AIMSuite のような機能を採用することで、利益の増加と TOC の低下を図っています。